

高校生対象

覚えておくにと**とても**役立つ

精選英熟語 100 Vol. 1

<p>1 最初は、彼が誰だかわからなかった。 I didn't recognize him (     )(     ).</p>	<p>1 <b>at first</b> 「最初は」 簡単に訳せそうな熟語ほど、意外にひっかけやすいので注意。この場合は、for the first time「はじめて」(⇒5)と意味の区別を完全につけておくのがポイント。at firstは時を表す前置詞の“at”があるので、「最初の時」すなわち「はじめは」の意味と考えれば区別しやすい。  ( at )( first )</p>
<p>2 私は病気のために学校を休んだ。 I was absent from school (     )(     ) illness.</p>	<p>2 <b>because of</b> ～ 「～のために」 because ofはひとまとまりで前置詞句として働くので、ofの後には名詞、動名詞がくるのがポイント。したがって並べ替えや言い換え問題で of が使えない場合には、because+S+Vとして完全な節を作る必要がある。例文なら、“I was absent from school because I was ill”  ( because )( of )</p>
<p>3 大変暑い日だった。実際、40℃以上もあったのだ。 It was very hot ; (     )(     ) it was more than 40℃.</p>	<p>3 <b>in fact</b> 「実際は」 訳としては、「実際は」とか「本当は」などとすれば十分だが、文脈を読み取るときのキーになる重要な表現だ。例文のように何かを強調したいときや、事実関係のポイントを述べたい文に使われる。長文読解では、このような、文にメリハリをつける表現に気を付けることで速読力が増す。  ( in )( fact )</p>
<p>4 彼は、会議に出席するために早く起きた。 He got up early (     )(     )(     ) attend the meeting.</p>	<p>4 <b>in order to</b> 不定詞 「～するために (目的)」 不定詞の用法の中でも、とくに「目的」を表すことを強調したいときに使う。「～するために」ときちんと訳そう。That節を用いた言い換えも頻出で、その際助動詞をいっしょに用いるが普通。“He got up early in order that he might attend the meeting.”となる。  ( in )( order )( to )</p>

5

私ははじめて日本に来た。

I came to japan (     )(     )(     )(     ).

5 for the first time 「はじめて」

文字通り訳せば、「最初の時として」すなはち「はじめて」の意味が読み取れる。こうしておけば、at first「最初は」(→1)との区別も容易になる。ただし、穴埋めや作文など、書かせる問題も多いので、例文まで含めて間違いなく記憶しておきたいところだ。

( for )( the )( first )( time )

6

結局は君が正しかった。

You were right (     )(     ).

6 after all 「結局は」

直訳すれば「すべての後に」、つまり「結局は」ということになる。この語が出てきたら、そこにはすべての結末、結論が書いてある可能性が大きい。意味的には、「いろいろとやってみたが、結局は・・・」という消極的ニュアンスが多いのを知っておくと、訳出の際にグンと有利になる。

( after )( all )

7

すぐに帰ってきてください。

Please come back (     )(     ).

7 at once 「すぐに」「同時に」

二つの訳語があり、「すぐに」のほうは一語で言うと「immediately」。もっと簡単に言うと soon。「同時に」のほうは、once「一度」の意味に、時の前置詞 at がついて「(時間的に)一度に」となったと考えればいい。こちらは熟語というより、むしろ文脈から判別する方が容易。

( at )( once )

8

彼は子どもたちの世話をしない。

He does not (     )(     )(     ) his children.

8 take care of ～ 「～の世話をする」

同意語として look after ～ (→37)も忘れないように。また、病気の相手を気づかう時の表現“Please take care of yourself.”「おだいじに」は、会話体の文章で頻出するので知っておこう。of 以下がない take care だけで「注意する」という意味も、ごくたまに出る。

( take )( care )( of )

9

私は母から毎月便りをもらう。

I ( ) ( ) my mother every month.

9 **hear from** ～ 「～から便り(連絡)がある」

訳を忘れても単語自体から意味はだいたいわかるが、ここはやはり「～から便り(連絡)がある」とキッチリ訳したい。穴埋め問題では **hear of** ～ 「～(のうわさ)を聞く、耳にする」と混同することもあるが、**from** が「～から」、**of** が「～について」と考えれば、区別は容易にできる。

(hear)(from)

10

スポーツだけでなく音楽も好きだ。

I love music ( ) ( ) ( ) sports.

10 **A as well as B** 「Bと同様にAも」

Bではなく、Aに重点を置いた表現。この点で、**not only A, but also B** 「AだけでなくBも」(→13)とまったく逆であることに注意。

(as)(well)(as)

11

彼は全くテレビを見ない。

He does ( ) watch television ( ) ( ).

11 **not ... at all** 「まったく・・・ない」

**at all** が **not** を強め、**never** と同じ完全否定の意味になる用法。例文も “**He never watches television.**” と書き換えが可能。**not** がなければ疑問文では「いったい・・・」、**if** 節では「どうせ・・・なら」という別の意味になってしまうから、まずは冷静に **not** を探そう。読解はそこからだ。

(not)(at)(all)

12

君はできる限り早く家に帰ったほうがいい。

You had better go home ( ) soon ( ) ( ).

12 **as ~ as possible** 「できる限り～」

**as ~ as** の比較表現が基本にある。当然、～の部分には副詞か形容詞が入り、「できる限り～」がこの熟語の意味。よく出るのが **as ~ as one can** との書き換え。例文は “**You had better go home as soon as you can.**” と書き換え可能。穴埋めではカッコの数に要注意だ。

(as)(as)(possible)

1 3

彼女は美しいだけでなくみんなにやさしい。

She isn't ( ) beautiful ( ) ( ) kind to everybody.

1 3 **not only A, but also B** 「AのみならずBまでも」

ポイントはAではなくBに重点が置かれている点で、これが主語の部分に来た場合、動詞はBに呼応する。but also 以下をしっかりと読み取って訳さないと点はもらえない。only と also は省略されることもあり、また not と but がかなり離れていることもある。引っかけ問題によくある。

( only ) ( but ) ( also )

1 4

私はスキーより水泳のほうが好きだ。

I ( ) swimming ( ) skiing.

1 4 **prefer A to B** 「BよりもAのほうを好む」

動詞の prefer 「～を好む」が、比較表現でありながら than ではなく to を使う点がポイント。ただし意外に盲点なのは、A, B に to 不定詞がくるとき。このとき比較には、to ではなく rather than を使う。例文は “I prefer to swim rather than to ski.” となる。

( prefer ) ( to )

1 5

発音の点を除けば、みんな上手なフランス語を話す。

( ) ( ) pronunciation, everyone can speak good French.

1 5 **except for** ～ 「～(の点を)除けば」

except ～ の場合は、除かれる対象に対応する名詞が後の文中にくる。例文は、 “Except me, everyone can speak good French.” とは言えるが “Except pronunciation, everyone...” とは言えない。

( Except ) ( for )

1 6

彼はこの試合に勝ちそうだ。

He is ( ) to win this game.

1 6 **be likely to** ～ 不定詞 「～しそうだ」

この熟語は、きちんとした日本語に訳せることがまず第一。「～しそうだ」と訳すコツを知らないと、点の取れる和訳にならない。また、It を主語にした書き換えも頻出。例文では “It is likely that he will win.” となる。

( likely )

17

私の父はとても釣りが上手だ。

My father is very ( ) ( ) fishing.

17 **be good at** ～ 「～が上手である」

前置詞 **at** の後にくるのは、名詞か動名詞だ。good だからといって、とくに「良い」という意味はなく、「得意」「上手」といったところ。英作文や会話体の文章で頻出し、しかも書かせる問題が多い。「～が上手」という意味ではいちばん使いやすい表現なので、覚えておくと非常に便利

( good ) ( at )

18

その理論は一般的に認められている。

The theory is accepted ( ) ( ) .

18 **in general** 「一般に」

副詞 **generally** で置き換えられる。訳は「一般に」でいいが、文脈によっては「普通は」(=**usually**)などと訳してもいい。注意すべきは複数名詞とセットのときで、たとえば **people in general** なら「たいていの人々」、**women in general** なら「たいていの女性」となる。

( in ) ( general )

19

要するに、彼はあまりにも正直すぎた。

In ( ), he was too honest.

19 **in short** 「要するに」「つまり」

意味としては、文字通り「手短かに言えば」といったところ。「要するに」「つまり」など文脈に応じて訳し分ければいい。類義語も多いが、二語なら **in brief**、三語なら **in a word** がある。まとめて覚えて、それぞれ出てきたら訳せるようにしておこう。

( short )

20

私はそのニュースに大変驚いた。

I was very ( ) ( ) the news.

20 **be surprised at** ～ 「～に驚く」

「～に驚く」というときの、ごく普通に用いられる表現。at の後には名詞相当語句がくる。注意したいのは不定詞がきたときで、このとき at は不要。“I was very surprised to hear the news.”「私はそのニュースを聞いて驚いた」。原因を表す用法の不定詞なので、訳し方も注意。

( surprised ) ( at )

2 1

彼は少なくとも月に 10 冊は本を読む。

He reads ( ) ( ) ten books a month.

2 1 **at least** 「少なくとも」

**least** が形容詞 **little** の最上級であることを、知らなかった人は覚えておこう(ちなみに比較級は **less**)。反意語は **at most** 「多くとも、せいぜい」。比較級を使った書き換えとして頻出し、ちょっとむずかしいが、例文は “**He reads not less than ten books a month.**” と書き換え可能。

( at ) ( least )

2 2

まず第一に、彼はあまりにも若すぎる。

( ) ( ) ( ), he is too young.

2 2 **to begin with** 「まず第一に」

前置詞 **with** の後には、普通なら名詞などがくるはずだが、そうならずカンマ(,) でプツリ終わって文が始まるのが熟語らしいところ。**to begin with** から日本語の訳は出やすいが、日本語から英語がなかなか思いつきにくい。英作文では、この表現を知っているとグンと有利になる。

( To ) ( begin ) ( with )

2 3

私はまだビジネスレターを書くことに慣れていない。

I am not ( ) ( ) writing a business letter, yet.

2 3 **be used to** ～ 「に慣れている」

**be used to** ～ = **be accustomed to** ～(→72)である。この **to** は前置詞なので、後には動(名)詞がくる。行為に重点を置くと **get used to** ～「～に慣れる」となる。ポイントは、助動詞の **used to** (+動詞の原型)との区別。こちらは「(過去に) ～したものだ」の表現(→24)で、意味も用法もまったく違う。

( used ) ( to )

2 4

昔はよくビールを飲んだものだ。

I ( ) ( ) drink beer.

2 4 **used to** 「(以前はよく) ～したものだ」

**used to** ひとまとめで、過去の状態や習慣を表す助動詞である。したがって～の部分には動詞の原型がはいり、「以前はよく～したものだ」の意味になる。「現在はそうではないが」という意味があるので、和訳の際はここ辺のニュアンスを表現できれば完璧だ。

( used ) ( to )

25

そのときメアリーが君を探していたよ。

Mary was ( ) ( ) you at that time.

25 look for 「～を探す」

単純に「～を見る」なら look at だが、「探す」となると look for ～になる。この for は「求める」の意味の用法で、ask for ～「～を要求する」の場合と同様である。「探す」の意味では search があるが、search for ～「～を捜す」、in search of ～「～を捜して」も頻出。

( looking ) ( for )

26

概して、日本人は外国語が不得意だ。

As ( ) ( ) , Japanese people are not good at foreign languages.

26 as a rule 「概して」

直訳すれば「ルールとして」となるが、rule に「ごく普通のこと」の意味があるのを覚えてしまえば、そこから「概して」の訳も浮かんでくるだろう。「概して」という言葉を使いたくなければ、「一般的に」でもかまわない。一語で表すなら generally。

( a ) ( rule )

27

多くの危険があるにもかかわらず、ラグビーは大変人気がある。

( ) ( ) ( ) many dangers, rugby is very popular.

27 in spite of ～ 「～にもかかわらず」

spite 自体の意味は知らなくていいが、この熟語は全訳文や穴埋めなどにやたらと出る。文中に出てきたときは、「～にもかかわらず結局どうなの？」と考えながら読むと文脈がとりやすい。一語で書き換えるなら despite ～。

( In ) ( spite ) ( of )

28

新聞によると、昨夜大火事があった。

( ) ( ) the newspaper, there was a big fire last night.

28 according to ～ 「～によれば」

according だけで単独で出るとはまずない。名詞、代名詞を伴って according to ～の形か、節を伴って according as SV, …の形のどちらかである。訳し方は文脈によって「～に従って」などいろいろだが、「～によれば」を出発点として考えればほとんど対応できる。

( According ) ( to )

29

それどころか(反対に)、私はあなたが実際にそのことを知っていると思う。  
( ) ( ) ( ), I think that you do know about that.

29 on the contrary 「それどころか(反対に)」

この熟語は文全体を修飾し、相手の話などに反対して「それどころか」という意味を表す。よって、前置詞+名詞の普通の用法である to the contrary 「それと反対の」と区別すること。

( On ) ( the ) ( contrary )

30

私はドイツ語の代わりにフランス語を勉強した。  
I learned French ( ) ( ) German.

30 instead of ~ 「~の代わりに」

instead of は前置詞句であり、of の後には名詞や動名詞等がくる。差がつくのは、of 以下が省略されている場合の訳。“I learned French instead.” 「私は代わりにフランス語を習った」。意味のとらえ方は全く同じなので、あわてなければ問題はない。

( instead ) ( of )

31

彼女はいつも自分のことで(頭が)いっぱいだ。  
She is always ( ) ( ) her own matters.

31 be full of ~ 「~でいっぱいである」

「~でいっぱい」の意味で、full の後には of がはいる。この of は材料、構成要素を示すが、点差がつくのは be full of ~ = be filled with ~ の書き換え。形容詞 full を動詞 fill に換えると前置詞が with となる。fill A with B 「A を B で満たす」の受け身なので知っておきたい。

( full ) ( of )

32

彼は自分の影さえも恐れる。  
He is even ( ) ( ) his own shadow.

32 be afraid of ~ 「~を恐れる」

基本的な熟語だが、訳し方には注意がいる。文脈によっては、「(~を)恐れる」よりも「(~を)心配する」と軽く訳した方がいい場合もある。「恐れる」も「心配する」も、不安の程度の違いだと理解すれば納得できるだろう。この考え方は英作にも応用できるので、知っていると便利だ。

( afraid ) ( of )

3 3

あなたはたばこをやめたほうがよい。

You had better ( ) ( ) smoking.

3 3 give up 「止める」

プロレスの“ギブ・アップ”から連想されるように、「(途中で)あきらめる、放棄する」などの意味もある。ただし試験では、「やめる」がわかっているだけで、訳で困ることはない。さらに give up ～で、～には名詞のほか例文のように動名詞(～ing)もいることを覚えておけば完璧。

( give ) ( up )

3 4

私は例えばイタリアやスペインなど、外国へ行きたい。

I want to go abroad, ( ) ( ), to Italy or Spain.

3 4 for instance 「たとえば」

中学校で習った for example の応用と思えばいい。使い方も同じで、和訳や長文問題のほか正誤問題でもよく出る。ただし for an instance としないこと。instance 「例」が“数えられる名詞”のため、知っている人ほど間違いやすい

( for ) ( instance )

3 5

あなたはその競技に参加するつもりですか？

Are you going to ( ) ( ) ( ) the contest?

3 5 take part in ～ 「～に参加する」

基本的で覚えやすい熟語だ。しかも出題の頻度も長文、穴埋めとかなり高いので、確実な得点源に出来る。ただし試験で忘れてならないのが、take part in ～= participate in ～の書き換え。この二つは一方からもう一方がすぐ連想されるように、対にして覚えてしまうこと。

( take ) ( part ) ( in )

3 6

正直に言うと、私は孤独だった。

( ) ( ) ( ) ( ), I felt lonely.

3 6 to tell the truth 「正直に言うと」

文法的には独立不定詞と呼ばれる用法だが、慣用表現として覚えておけばいい。和訳では、文全体にかかるように「正直に言うと、…」と訳す。同意語句に“the fact is (that)” …と“as a matter of fact, …”いずれも「実を言うと」の意味なので、まとめて覚えておこう。

( To ) ( tell ) ( the ) ( truth )

37

私たちが外出しているあいだ、彼は犬の世話をした。

He ( ) ( ) our dog while we were out.

37 look after ～ 「～の世話をする」

look がわかってもらなかなか after が思い浮かばないため、穴埋め問題で失敗することがよくある。日本語で「後見人(こうけんじん)」という言葉があり、世話をなにかと見てくれる人のことを指すが、「後見」を英語にすればまさに“look after”だ。これさえ知れば、もう間違えない。

(looked) (after)

38

彼はうそをつく傾向がある。

He ( ) ( ) tell lies.

38 tend to 不定詞 「～する傾向がある」

傾向を表す重要熟語として、他に be apt to (→42)、be likely to (→16)があり、tend to と合わせて三点セットで覚えてしまえば完全。その際、tend だけが動詞なので be 動詞が不要。並べ換えや穴埋めでは、この be の有無が問題を解くカギになりやすいので、知っているとう利だ。

(tends) (to)

39

ロンドンは霧で有名である。

London is ( ) ( ) the fog.

39 be famous for ～ 「～で有名だ」

「～によって有名だ」の意味で、前置詞 for の部分が穴埋めに頻出。by ではなく理由を表す for がはいるのがポイント。「～で有名」という表現は英作文でもよく出題されるが、この熟語を知っていると解答しやすく、応用範囲も広がる。例文を丸ごと暗記しておくとう利な熟語だ。

(famous) (for)

40

ニューヨークにいたとき、私は偶然古い友人に出会った。

When I was in New York, I ( ) ( ) meet my old friend.

40 happen to ～ 「偶然～する」

下線部訳で頻出。happen 「起こる」だけ知っているても、「偶然～する」の訳はなかなか出てこない。S happen to ～のほか、非人称の It を主語にして It happened that SV の形もよく出てくるが、訳は全く同じで、「(Sは)偶然～する」となるから問題は無い。

(happened) (to)

4 1

ひどい風邪が、まだ抜けない。

I have not ( ) ( ) ( ) my bad cold yet.

4 1 **get rid of** ～ 「～を取り除く」

ridはこの熟語以外ではまず出てこない。何かやっかいなものを「取り除く」ときに用い、穴埋め問題では最頻出。ポイントは分離を示す of で、rob 人 of ～「人から～を奪う」。まれに be rid of ～も出るが、「～がなくなる」と状態を表すように訳せばいい。

(gotten) (rid) (of)

4 2

若い人は時間を浪費する傾向がある。

Young people are ( ) ( ) waste time.

4 2 **be apt to** 不定詞 「～する傾向がある」

aptは、試験では“be apt to 不定詞”の形でしか出てこない。tend to 不定詞(→38)、be likely to ～(→16)と合わせて、傾向を表す重要熟語。apt自体は形容詞「～しがちな」の意味で、likelyと同義だ。文脈によって、「～しそうだ」の訳もあてはめられるようにしておけば差がつく。

(apt) (to)

4 3

その夕食はとても楽しかった。

We had a very good ( ) at the dinner.

4 3 **have a good time** 「楽しく過ごす」

反意語は、have a bad[hard] time 「ひどい目にあう」。行楽や旅行などに行く人に対して“have a good time!”などとも使う。いずれも英文を見れば文意はわかるだろう。注意すべきは、動詞の have だ。慣用表現なので覚えておこう。

(time)

4 4

君に会うのを楽しみにしている。

I am ( ) ( ) ( ) seeing you.

4 4 **look forward to** ～ 「～を楽しみに待つ」

会話文や手紙文で頻出の表現。forwardが「前方に」の意味だから、「前の方(これから先のこと)を楽しみに見る」というイメージで覚えるとラク。また、toは前置詞なので、その後には動(名)詞がくるから注意。穴埋めで to の後に動詞がくるようなときには、かならず、～ing(動名詞)にすること。

(looking) (forward) (to)

4 5

あなたの時計は私のより質の点ですぐれている。  
Your watch is ( ) ( ) mine in quality.

4 5 **be superior to** ～ 「～よりすぐれている」

極めてよく出題されるが、その理由は「～より(も)」という比較に意味にもかかわらず、**than** ～ではなく **to** ～を用いるため。穴埋めでは、くれぐれも **superior than** ～などとしないうこと。反意語 **be inferior to** ～も同様に頻出なので、対にしてマスターしよう。

(superior)(to)

4 6

私はその女性を記者だと考えていた。  
I ( ) ( ) the women ( ) a journalist.

4 6 **think of A as B** 「AをBだと考える」

**think of** ～「～のことを考える」に補語の印の **as** がきて、「A is B であると考えてる」の意味になる。**as** を **is** に置き換えてみると意味がとりやすい。例文では、「the woman is a journalist だとわたしが **think of** する」と考えるのが基本。**regard A as B** (→87) もまったく同様。

(thought)(of)(as)

4 7

彼の試験の成功は、彼の努力のおかげである。  
His success in the examination is ( ) ( ) his efforts.

4 7 **due to** ～ 「～のために(原因)」

**because of** (→2) と同じと考えるとわかりやすい。因果関係を表す熟語なので、文脈をとる際のキーになる。当然下線部訳でも頻出だが、まずは文意をしっかりとつかんでから適当な日本語表現を探そう。「～のおかげで」(好ましい状況のとき)などの訳も知っておくと、さらに訳しやすくなる。

(due)(to)

4 8

彼はいわゆる先駆者だ。  
He is ( ) ( ) ( ) a pioneer.

4 8 **what we call** 「いわゆる」

この熟語は挿入句として使われる。受け身表現にして、**what is called** としても意味はまったく同じ。穴埋めや並べ換えのときは、どちらでいくのかきちんと見極めて解答すること。間違っても、**what we called** など、二つを混同して書いてはダメ。両方区別して完全に覚えよう。

(what)(we)(call)

4 9

明かりをつけてください。

Please (     )(     ) the light.

4 9 **turn on / off** 「(電気、スイッチなどを)つける/消す」

テレビ、ラジオ、電球、水道などを「つける/消す」の意味で用いる(水道は当然「出す」と訳す)。基本語ではあるが、目的語に it など代名詞がきたときは要注意。turn it on, turn it off のように語順が入れ換わる。作文や並べ換え問題では失点になるので、くれぐれも見落とさないように。

( turn ) ( on )

5 0

この絵はあの絵に匹敵するほどの価値がある。

This picture is (     )(     ) that one in value.

5 0 **be equal to** ～ 「～に匹敵する」

equal 事態に「等しい(イコール)」の意味があり、ここから発展して[～に匹敵する]の意味が出てくる。下線部訳ではたとえば“I'm not equal to this job.”「私はこの仕事をする資格がない」などと、資格、能力に関しても使われるが、「匹敵する」をベースに文脈をとれば訳せる。

( equal ) ( to )

5 1

私の意見は君のと似ている。

My opinion is (     )(     ) yours.

5 1 **be similar to** ～ 「～と似ている」

穴埋めでは、similar 自体を選択させることがある。ポイントは similar には to が必要なこと。類義語の like(前置詞)や、resemble(他動詞)の場合は to が不必要なので注意しよう。

( similar ) ( to )

5 2

彼女の冗談は笑わずにはいられない。

I (     )(     ) laughing at her joke.

5 2 **cannot help** ～ing 「～せざるを得ない」

注意すべきは cannot help の場合は動名詞が後にくるということ。例文でも、動詞がもし“laugh”と原形だったなら(cannot)(but)がはいる。しっかり～ingをつけて覚えておけば、区別はできるはず。穴埋めでは頻出だから要注意。

( cannot ) ( help )

5 3

彼らは夜通し語り合った。

They ( ) ( ) talking all night.

5 3 go on ~ing 「～し続ける」

動作の継続を表す on が使われていることが最重要。keep on ~ing も同じ意味。どちらもムリに go や keep を訳す必要はなく、「～し続ける」とすれば OK。まれに go [keep] on with ~(~は名詞)の形も使われるが、意味は「(～し)続ける」で同じだから、神経質になる必要はない。

( went ) ( on )

5 4

そんなささいなことは問題外だ。

Such a trifle thing is ( ) ( ) the question.

5 4 out of ~ 「～の範囲外で」

out of ~は、~にはいる単語によっていろいろ使える重要な熟語だ。「～の範囲外」「～の外で」の意味が基本になる。out of the question 「問題の外」→「問題外」、out of order 「秩序の外」→「(機械などの)調子が悪い」、out of control 「支配の外」→「制御不能」などが頻出。

( out ) ( of )

5 5

私は黒板を見るために眼鏡をかけた。

I ( ) ( ) my glasses to see the blackboard.

5 5 put on ~ 「(～を)身に付ける」

服やシャツだけでなく、帽子、メガネ、指輪まで「身につける」ものなら何でも使える。用途が広いので覚えてしまうと便利。類義語の wear が身につけている「状態」を示すの対し、put on は身につける「動作」を示す。反意語は put off ではなく、take off(→56)になることも盲点。

( put ) ( on )

5 6

彼はオーバーを脱いだ。

He ( ) ( ) his overcoat.

5 6 take off ~ 「(～を)脱ぐ」

put on 「身につける」(→55)の反意表現。脱ぐものは、「身につけていたもの」なら、同じくメガネでも指輪でも OK だ。take off には「(飛行機が)離陸する」の意味もあるが、文脈ですぐに判断がつくので心配はいらない。まずは「脱ぐ」を put on ~とセットでマスターしておこう。

( took ) ( off )

5 7

私たちのクラスは 30 人の生徒から成り立っている。

Our class is ( ) ( ) ( ) 30 students.

5 7 **be made up of** ～ 「～からなる」

make up「作り上げる」が受け身になって、材料、構成要素を示す“of”がくっついたものと考えると理解は早い。これを二語で言い換えると、consist of となる。こちらもよく出てくる表現だ。なお、後に「構成人数」がくるとき以外、up がないことが多い。

(made)(up)(of)

5 8

スピーチの中で、彼は企業の強さについて言及した。

In the speech, ( ) ( ) the strength of the company.

5 8 **refer to** ～ 「～に言及する」「～を参照する」

refer だけで「(人や物などについて)言及する、参照する」の重要語。穴埋め問題では to が頻出する。また refer が動詞であることは、意外に見落としやすいので要注意。名詞形の reference「参照」も、リファレンスブック「参考書」などと使うことも合わせて覚えておくこと。

(referred)(to)

5 9

筋書きは別として、その本は私をひきつけた。

( ) ( ) the plot, the book interested me.

5 9 **apart from** ～ 「～は別として」

もともとの意味は「～から(距離的に)離れて」だが、大切なのは上に示した訳。文頭の穴埋めでよくお目にかかる。また、読解の際には、“apart from ～,” の節の後に結論となる文が続くことが多いから、気をつけて読み進めるクセをつければ、文意の把握が容易になる。

(Apart)(from)

6 0

他方、多くの人間が若くして死んでいる。

( ) ( ) ( ) ( ), a lot of people die young.

6 0 **on the other hand** 「他方(では)」

読解力のアップには欠かせない重要表現。文中に“on the other hand”と出てきたら、『他方』というからにはそれに先立つ『一方』があるはずと考えて文脈を整理すると、文意が驚くほどとりやすくなる。“on the one hand”「一方(では)」は対にして記憶しておきたい。

(On)(the)(other)(hand)

6 1

きのう学校に行く途中、偶然おじに会った。

I happened to see my uncle on ( ) ( ) ( ) school  
yesterday.

6 1 on one's way (to ~) 「(～への)途中で」

way が本来の「道」の意味でつかわれている熟語。way の後には、on one's way home など場所を示す副詞がきたり、“to ~” と具体的な場所を示す名詞がくる。way というのと、とにかく「～の方法で」などとしなないことだ。

( my ) ( way ) ( to )

6 2

その景色は言葉では表現できないほどだった。

The scenery was ( ) description.

6 2 beyond description 「(言葉では)表現できないほど」

穴埋め問題の頻出語句だが、beyond が「～を超えて」の意味をもつ前置詞であることがわかれば解答は容易。問題は下線部訳のときで、なかなかこなれた日本語にならない場合がある。例文でも、「言葉では表せないほど美しい」などと説明的に考えるとうまくいく。

( beyond )

6 3

私に関していうと、ウイスキーよりビールが好きだ。

( ) ( ) me, I prefer beer to whisky.

6 3 As for ~ 「～に関しては」

かならず文頭にくるのがきまり。ただしいきなり As for ではじまる文章はなく、何か言うべき事柄が前のセンテンスで述べられた後に「(それで)～に関しては…」という状況で使われる。だから、As for の前の文に注目すれば文脈はとりやすくなる。長文読解のコツだ。

( As ) ( for )

6 4

彼女の美しさに関しては、疑う余地がない。

There is no doubt ( ) ( ) her beauty.

6 4 as to ~ 「～に関しては」

As for (→63) と意味は同じだが、違う点は使われる場所。As for はかならず文頭にくるのに対して、as to は文頭でも文中でも用いられる。したがって、文頭ならどちらでもいいが、文中に( )があったら as for ではなく as to を選ぶこと。同意語句の盲点のひとつだ。

( as ) ( to )

6 5

あなたに会うとかならず母のことを考える。

I ( ) see you ( ) thinking of my mother.

6 5 never … without ~ing 「…すると必ず～する」

和訳問題で差が出る熟語。never は「決して…ない」、without ~ing は「～することなしに」だから、直訳は「～することなしには決して…しない」となる。が、否定の否定→積極的な肯定と考え、「…すると必ず～する」と訳するのが得点率アップのコツ。しっかりマスターしておこう。

( never ) ( without )

6 6

私たちの思想は言葉によって表現される。

Our thought is expressed ( ) ( ) ( ) language.

6 6 by means of 「～によって」

by だけでも「～によって」なのに、さらに means 「手段、方法」を重ねたのがこの熟語。つまり、この熟語は後に続く「手段」を強調したいときによく使われる。それを知っておけば読解では大いに役立つはず。穴埋めでは、means の “s” を落とさないように要注意。

( by ) ( means ) ( of )

6 7

この飛行機は一度に 40 人の乗客を運べます。

This airplane is ( ) ( ) carrying 40 passengers at a time.

6 7 be capable of ~ing 「～できる」

穴埋め、書き換えでは頻出の表現。ポイントは be capable of ~ing = be able to 不定詞 = can + 動詞の原形、の言い換えのマスター。穴埋めのときは、~ing がきたら “be capable of”, to 不定詞なら “be able to” のように動詞の原形を見てそれぞれを判断すればいい。

( capable ) ( of )

6 8

私は彼が当然来ると思った。

I ( ) it ( ) ( ) that he would come.

6 8 take ~ for granted 「～を当然のことと考える」

“～” の部分が長い場合は、“take it for granted that …” となるのが普通。このときの “it” は、that 以下を受けるので、訳は「(that 以下のこと)を当然のことと考える」とすればいい。とくに長文などでこの形が出てくると、意外に気づきにくいことがあるので注意したい。

( took ) ( for ) ( granted )

69

彼はこのコンピュータに精通している。

He is ( ) ( ) this computer.

69 be familiar with ～ 「～をよく知っている」

和訳では「～と親しい」「～に精通している」など、文脈に応じて臨機応変にいきたい。注意すべきは be familiar to ～との区別。こちらは、「～によく知られている」。

(familiar)(with)

70

あなたを見るとあなたのお母さんを思い出す。

You ( ) me ( ) your mother.

70 remind A of B 「AにBのことを思い出させる」

“remind” が、re(ふたたび) + mind(気にかける)で「思い出す」と連想できれば訳は簡単。大切なのは、前置詞の of で、穴埋めで問われることが多い。ただし、B が that 節になることもあり、そのときは of が省略される(remind A that …)から要注意。

(remind)(of)

71

雪のため飛行機は離陸できなかった。

The snow ( ) the airplane ( ) taking off.

71 prevent ～ from —ing 「～が～するのを妨げる」

prevent が to 不定詞をとらずに、“from —ing”をとるとというのが、正誤問題や穴埋めの対象となるから注意。また例文のように、無生物主語がきたときの訳もポイント。「雪が…」と直訳せずに、「雪のために…」と原因・理由を示すように訳するのがコツ。例文で再確認しよう

(prevented)(from)

72

私たちは靴をはくのに慣れている。

We are ( ) ( ) wearing shoes.

72 be accustomed to ～ 「～に慣れている」

この場合の to は前置詞なので、後にくるのは名詞か動名詞。不定詞と混同して、例文を “We are accustomed to wear shoes.” などとやると間違いだから、正誤問題などでは要注意。また get accustomed to ～もよく出るが、これは「～に慣れる」でいい。

(accustomed)(to)

7 3

彼はその交渉にたいへん骨を折った。

He ( ) great ( ) in the negotiation.

7 3 take pains 「骨を折る」

名詞の pain は肉体的、精神的な苦痛を意味する。だから “take pains” は「苦勞する」でもいいが、「骨を折る」だとさらにピッタリくるし、和訳では点を稼げる。ポイントは、穴埋めの際にかならず “pains” と複数形にすること。これは正誤問題でも出てくるから注意しておこう。

( took ) ( pains )

7 4

どうぞおくつろぎください。

Please make yourself ( ) ( ).

7 4 at home 「くつろいで」

「在宅して」の意味もちろんあるが、「(家にいるように)くつろいで」という意味がよく出題される。これは、「アットホームな雰囲気です…」などと日本語化されているのでわかりやすい。さらに発展して「(家にいるように)よく知っている」となることもある。文脈で読みとろう。

( at ) ( home )

7 5

買い物に行くよりも、むしろ家にいたい。

I ( ) ( ) stay at home ( ) go shopping.

7 5 would rather ~ than …

「(どちらかといえば)むしろ…より～したい」

和訳問題では than 以下が省略されていることもあるが、その場合は「(どちらかといえば)むしろ～したい」とだけ訳せばいい。穴埋めのポイントは、would を選択できるかどうか。「できれば～したい」という推量に加わるために、will ではなく would のだと覚えよう。

( would ) ( rather ) ( than )

7 6

彼らが出発するかしないかのうちに雨が降り出した。

They had ( ) started ( ) it began to rain.

7 6 hardly [scarcely] … when [before] ~

「…するやいなや(すぐ) ~」

hardly の意味「ほとんど～ない」と had started(過去完了)、began(過去)の時制の違いがわかれば理解しやすい。「彼らはほとんど出発していなかった(過去完了)+雨が降り出したとき(過去)」が直訳だが、時系列的には出発したこと(過去完了)のほうが先だから例文のような訳になる。

( hardly ) ( when )

77

私は彼と昼食を食べる予定だ。

I am ( ) have lunch with him.

77 be to 不定詞 「予定/義務/可能」

“be to 不定詞”のおもな意味は三つ。①予定(= will)「～する予定だ」、②義務(= should)「～すべきだ」、③可能(= can)「～できる」。文中で“be to 不定詞”に出くわしたらあわてずに、①～③のどれにあてはまるかしっかり考えれば、ほとんど解答できる。

(to)

78

私の息子はいまだにサンタクロースがいると信じている。

My son still ( )( ) Santa Claus.

78 believe in ～ 「(～の存在、～の価値を)信じる」

believe ～でも「信じる」だが、“believe in”だと、「～の存在や価値を信じる」というやや強い意味を表す「信仰」に近くなっていく。訳では、この微妙な違いに神経を使う必要はないが、知っておけば文意の理解には差がつく。穴埋めでは“in”を入れて、しっかり点を稼ごう

(believes)(in)

79

この列車にはかなり多数の乗客が乗っている。

There are ( )( )( ) passengers on this train.

79 not a few 「少なからぬ」

a few に not がついて「すこしではない」→「少なからぬ」となるが、意味は quite a few 「かなり多くの」と同じと考えていい。また「量」については not a little 「少なからぬ」があるが、考え方は同じ。数と量のニュアンスの違いは、日本語に訳せばあまり影響はない。

(not)(a)(few)

80

君は、故意に間違いを犯したんだね。

You made the mistake ( )( ), didn't you?.

80 on purpose 「故意に」

by chance や by accident 「偶然に」とは反意的な熟語。purpose 自体「目的」だから、直訳すると「目的をもって」。前置詞“on”が問われることが多いから確認しながら覚えよう。また、for the purpose of には the がつくが、こちらはつかないので要注意。

(on)(purpose)

8 1

彼女は一生懸命勉強してクラスの人に追いつかねばならなかった。  
She had to study hard to ( ) ( ) ( ) her classmate.

8 1 catch up with ～ 「～に追いつく」

come up with とはまったく同じ意味。( )が3つなら、どちらを入れても間違いはない。しかし似た形でも keep up with だと、「～に遅れずについていく」となって、ニュアンスが違う。“keep ～”のほうは、その時点では遅れていないことを示しているから注意しよう。

(catch)(up)(with)

8 2

彼らの計画は失敗に終わった。  
Their plan ( ) ( ) failure.

8 2 result in ～ 「～に終わる」

名詞の result は「結果」。これが動詞として出てくると、“in”を伴って「～(の結果)に終わる」の意味になり、この訳し方がポイントとなる。注意すべき別の表現に、result from ～というものがあるが、これは文字通り「～からの結果である、～から生じる」とすればいい。

(resulted)(in)

8 3

彼女はそれについてすべてを知っているかのように話す。  
She talks ( ) ( ) she knew all about it.

8 3 as if …… 「まるで…(である)かのように」

長文読解では欠かせない熟語。後に続く文には仮定法が適用され、例文のように過去形(内容は現在)や、過去完了形(内容が過去)が用いられる。“as”と“if”がはなれていたらこの熟語ではないから、そこははっきりと区別すること。as though も同じ意味。

(as)(if)

8 4

彼は、いわば、歩く辞書だ。  
He is, ( ) ( ) ( ), a walking dictionary.

8 4 so to speak 「いわば」

挿入句として用いられ、「いわば」という意味を表す。as it were とは同じ意味。この後にはすこし大きな表現が続くから、訳を知らないと何が何だかわからないこともある。英作文で使える程度にマスターしたいが、実際に書くときには前後にカンマをつけたほうがいい。

(so)(to)(speak)

8 5

彼女は援助を切望していた。

She was anxious ( ) help.

8 5 **be anxious for** ～ 「～を切望している」

**anxious** は「心配して」の意味の形容詞。この意味で使うときの前置詞はごく当たり前前に **about** でいい。ところが例文のように「～を切望して」の場合が間違いやすく、“**for**”を使う。これは穴埋め問題で頻出。ポイントは **for** に要求の意味があることを知ること。これで容易に区別がつく

( for )

8 6

この魚は毒が無い。

This fish is ( ) ( ) poison.

8 6 **free from** ～ 「～がない」

「～から自由で」が文字通りの訳だが、これでは和訳の際、ほとんど点はもらえない。例文でも「この魚は毒から自由だ」では不正解だ。ここはやはり「～がない」という訳にしてガッチリ点を稼ぎたい。知ってさえいれば即点に結びつくので、訳を完全に覚えておこう。

( free ) ( from )

8 7

私は彼が良い先生だと考えていた。

I ( ) him ( ) a good teacher.

8 7 **regard A as B** 「AをBとみなす」

**as** は B が A の補語であることを示す目印である。例文では「**He is a good teacher** だと私がみなす(考える)」が基本の意味。**regard** を **think of** (→46) と置き換えても同様。この構文をとる熟語には **look on A as B** もあり、いずれも「A is B と思う(みなす、考える)」が基本。

( regarded ) ( as )

8 8

彼は5年前、すなわち、12歳のときに東京へ来た。

He came to Tokyo five years ago, ( ) ( ) ( ) ( ),  
when he was twelve years old.

8 8 **that is (to say)** 「すなわち」

挿入句として使われ、「すなわち」と訳せばいい。これは熟語表現なので、例文でも過去のことだからといって“**that was to say**”などとしては不正解。

( that ) ( is ) ( to ) ( say )

89

彼は午後9時にここへ来ることになっています。

He is ( ) ( ) come here at 9 pm..

89 **be supposed to** 不定詞 「～する予定になっている」

動詞 **suppose** が「思う、考える」であることを知っていても、単純に受け身で「～と考えられている」としただけでは和訳の場合、正解にならない。ここはきちんと「予定」の意味であることを明確にしたうえで、訳文を書く必要がある。点差のつきやすい重要熟語だ。

(supposed)(to)

90

彼は徐々に父を愛するようになった。

He gradually ( ) ( ) love his father.

90 **come to** 不定詞 「～するようになる」

「～になる」の意味で～が形容詞か名詞なら、**become** を使えるが、例文のように不定詞がくる場合には、**become** は使えず、**come to** ～となる。訳出のときは、文脈にもよるが **come** だからといって何でも「来る」とはできないことも、この際わかっておこう。

(came)(to)

91

彼はひとりで外国へ行ってしまった。

He has gone abroad ( ) ( ).

91 **by oneself** 「ひとりで」

「ひとりで」という訳には「ひとりぼっちで」(=**alone**)という意味と、「独力で」(=**for oneself**)という二つの意味があることを覚えておきたい。例文は **alone** に置き換えられるほうの表現である。**for oneself** だと「自分自身のために」の意味もあり、多少ニュアンスも変わってしまう。

(by)(himself)

92

私は大人になったらパイロットになりたい。

I want to be a pilot when I ( ) ( ).

92 **grow up** 「成長する」

「成長する」の意味では、もっともよく用いられる表現。**grow** だけで「成長する」の意味の動詞だが、これに **up** がついて「大人になる」の意味が加わってくるが、試験では「成長する」の訳と **up** がつくことさえ知っていれば十分だ。**grow up to be** ～「で成長して～になる」という使い方をすることが多い。

(grow)(up)

9 3

友情が仕事より大切なのは言うまでもない。

It (     ) (     ) (     ) (     ) friendship is more important than business.

9 3 it goes without saying that …

「…なのは言うまでもない」

It ~ that …の構文になってはいるが、慣用表現なので、知らないとなかなか訳しにくい。that 節の内容について、「言うまでもない」とう意味で使われる。この表現は和訳はもちろんだが、穴埋めでもけっこう出る。したがって、すこし長いが完全に暗記しておくこと。

( goes ) ( without ) ( saying ) ( that )

9 4

去年の夏は雨が多かった。

We had (     ) (     ) (     ) (     ) rain last summer.

9 4 a good [great] deal of ~ 「多量の～」

数ではなく量の多さを示す熟語。だから of の後に続く名詞は、例文のように rain や snow, time などの不可算名詞。穴埋めの際は、単語自体は短くて簡単だが、カッコの数が多から気をつけたい。とくに“a”などは「多量」という表現につられて、入れ忘れることがないように。

( a ) ( good ) ( deal ) ( of )

9 5

彼はヒツジとヤギの区別がつかない。

He cannot (     ) sheep (     ) goats.

9 5 tell A from B 「AをBと見わける」

distinguish A from B と同じ意味。tell 「言う」の訳では通らない英文があったら、from を探すといい。tell A from B の構文は比較的ラクに見つけられる。ただし、穴埋め問題では、動詞に tell を選択するのにかなり勇気がいるので、熟語として知らないと困ることになる。ちなみに例文の sheep は不加算名詞、goat は加算名詞なので注意。

( tell ) ( from )

9 6

率直に言うと、あなたは間違っています。

(     ) (     ) (     ) with you, you are wrong.

9 6 to be frank with you 「率直に言うと」

「率直に言うと」の表現からわかるように、会話文などで使われることが多い。frankly speaking も同じ意味で、書き換え問題として出る。どちらも文全体にかかる表現なので、訳出の際には文頭にもってきて、「率直に言うと…」 「実は…」 などとはじめれば、長い文でもラクに訳せる。

( To ) ( be ) ( frank )

97

彼の年齢を考慮に入れたほうがよい。

You had better ( ) ( ) ( ) his age.

97 take account of ～ 「～を考慮に入れる」

穴埋めや書き換えで頻出。目的語と account の位置を入れ換えた take ～ into account [consideration]は、絶対忘れないように。例文では“You had better take his age into account [consideration].”となる。訳では「考慮」という表現を使いたいところだ。

(take)(account)(of)

98

どちらを選ぶかは、それは完全に君次第だ。

It is entirely ( ) ( ) you which one you may choose.

98 up to ～ 「～次第で」

up to は前置詞句で、「～まで(に)」の用法はごく普通。試験ではこれ以外に「～次第で」の意味が大事だ。会話文で用いられるのがほとんどで、使い方も例文のように“it's up to 人”の形が定番である。熟語だと意識しないと意味もちょっと推測できないので、覚えておく必要がある。

(up)(to)

99

私はこのことには関係ありません。

I am not ( ) ( ) this affair.

99 be concerned with 「～に関係している」

まずは「～に関係する」の意味を頭にたたき込む。そのうえで、訳出の際は受け身であるにもかかわらず能動的に訳すのが最大のポイント。「～に関して(with)関係づけられている」＝「～に関係がある」と、言っている内容自体に変化はないことを理解したい。

(concerned)(with)

100

その二国の間で、戦争が勃発した。

A war ( ) ( ) between the two countries.

100 break out 「(火事、戦争、暴動などが) 勃発する」

“break out”の主語には火事、戦争、暴動などの事件がくるから、ただ「起こる」ではなく「勃発」と覚えたほうがわかりやすい。一語で言い換えると occur か happen である。

(broke)(out)

